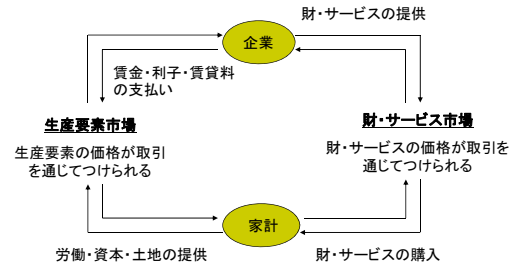


## マクロ経済学Ⅱ-1

### マクロ経済学Ⅰの復習

## マクロ経済学Ⅰの復習 マクロ経済の循環



## マクロ経済学Ⅰの復習 ケインズ型消費関数

- $C = A + cY_d$ 
  - $A > 0$ : 基礎消費(可処分所得ゼロのときでも支出される部分)
  - $Y_d$ : 可処分所得 = 所得 - 税負担 =  $Y - T$
  - $c$ : 限界消費性向(可処分所得が限界的に1円増えたとき、その中のいくらを消費に回すか)
    - $0 < c < 1$  (可処分所得が限界的に1円増えたとき、家計はその一部を消費に回し、一部を貯蓄に振り向ける)
- ケインズ型消費関数の図解
  - 45度線と交わる

## マクロ経済学Ⅰの復習 投資の決定

- 企業の目的: 利潤最大化
  - 利潤 = 収入 - 費用
- 企業の利潤最大化行動が投資を決定
  1. 望ましい資本ストック量を計算
  2. 望ましい資本ストック量を実現するように、投資量を決定

## マクロ経済学Ⅰの復習 資本の限界生産性

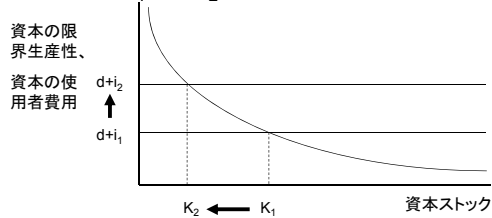
- 企業が資本ストックを増強すれば、より多くの財を生産できる
- 資本の限界生産性
  - 資本ストックを追加的に1単位増加させることによって、生産量はどれだけ増加するか
- 資本ストックが小さい(大きい)とき
  - 追加的な資本ストックの増加がもたらす生産量の増加は大きい(小さい)
- 資本の限界生産性の逡減
  - 資本の限界生産性は資本ストックが大きくなるにつれて、小さくなる

## マクロ経済学Ⅰの復習 資本の使用者費用

- 生産される財の価格を1と仮定
- 資本ストックを1単位増加させたときの生産の増加分  
= 資本の限界生産性 (= 収入の増加分)
- 資本ストックを1単位増加させたときの費用の増加分  
= 資本の使用者費用  
= 資本減耗率 + 利率

## 利率の変化と望ましい資本ストック

- 利率が $i_1$ から $i_2$ に上昇すると、望ましい資本ストック量は $K_1$ から $K_2$ に減少する



## マクロ経済学 I の復習 貨幣需要の動機

- 取引需要
  - 交換手段としての貨幣
  - 取引の額が増加するほど、取引需要は増加する
- 資産需要
  - 富の貯蔵手段としての貨幣
  - 資産需要としての貨幣需要をケインズは「流動性選好」と呼んだ
  - 利率が高いときに貨幣を保有すると、貨幣以外の金融資産を保有していたら得られたであろう利子を失うことになる
  - したがって、利率が上昇するほど、資産需要は減少する

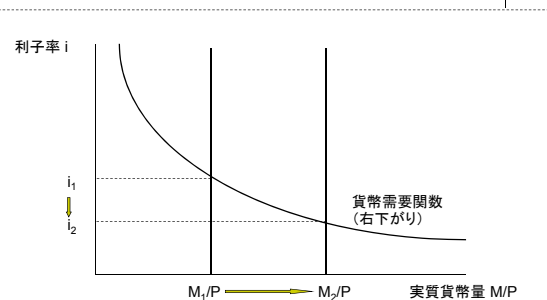
## マクロ経済学 I の復習 貨幣市場均衡

- ケインズの貨幣需要関数
  - $L=L(Y, i)$
  - 国民所得の増加→取引需要の増加
  - 利率の上昇→資産需要の減少
- 実質貨幣量:  $M/P$
- 貨幣市場均衡
  - (実質)貨幣需要量 = 実質貨幣量
  - $M/P=L(Y, i)$

## マクロ経済学 I の復習 利率の決定

- 国民所得 $Y$ を一定と仮定する
  - 貨幣需要は利率が上昇するほど減少する
- 物価水準 $P$ を一定と仮定する
- 貨幣量 $M$ に対して、 $M/P=L(Y, i)$ より均衡利率が唯一決まる
  - 貨幣量が多いほど、均衡利率は低くなる
  - 日本銀行は貨幣量をコントロールすることによって、利率をコントロールできる

## 均衡利率



## 講義の進め方

- 教科書『マクロ経済学・入門』福田慎一・照山博司著 (有斐閣)
  - 前期と同じ
- 授業支援システムに講義資料を掲載するので、印刷して予習をし、授業に持ってくる
- 評価
  - 定期試験で評価
    - 講義した範囲のみ出題、テキスト、ノート等持ち込み不可
- 私語厳禁
  - 2度注意して止まらないようなら退室